



# 2020年露地シャインマスカット病害虫防除暦

JA中野市営農センター  
JA中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	<b>特別散布</b> 展着剤 ラビキラー乳剤 20 mℓ 500 mℓ	発芽前 (休眠期)	2回	300	ブドウウカミキリ (ブドウカバ) (カスカバ)	① <u>トカミキリ、(ブドウカバ)、(カスカバ)</u> が発生する園は散布する。 <u>発芽後の散布は薬害が発生するので、必ず発芽前に散布する。</u> ② 元キラー剤は訪花昆虫に影響があるので、4月上旬の散布を厳守。
	4月下旬 (発芽直前)	① アビオン-E (展着剤) パスポート顆粒水和剤 100 mℓ 400 g	休眠期	1回	<b>手散布</b> 300	晩腐病 黒とう病	<u>※黒とう病対策のため、必ず散布時期を守りたっぷり散布する。</u> ① 巨峰混植園または晩腐病発生園はパスト顆粒水和剤に代えてベント水和剤200倍(休眠期、1回)を散布する。
	5月上旬 特別防除 カイガラムシ対策	<b>樹幹塗布(水:アルパリン=1:1)</b> 水【20mℓあたり】 アルパリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで ただし収穫30日前	塗布 1回	1樹あたり 20-40 mℓ	カイガラムシ類 (クビアスカシバ)	① 主幹分岐部下の粗皮を30cm以上削り塗布する。 薬液目安: 直径20cm以上の樹は40mℓ塗布。
	5月上旬 (発芽直後)	② 展着剤 モスピラン顆粒水溶剤 10 mℓ 50 g <small>※カスカバ類が多発する園は注意事項参照</small>	14日前	3回	300	ツマゲロアオカシカメ クワコカイガラムシ	① <u>訪花昆虫対策として早朝散布・下草刈りを実施厳守する。</u> <u>併せて散布適期を厳守する。</u> ② ツマゲロアオカシカメ発生園地はモスピラン顆粒水溶剤に代えて <b>スフィン水和剤40,000倍(21日前、2回)</b> を散布する。(訪花昆虫に注意)
	展葉2-3枚 (5月上中旬)	③ 展着剤 オンリーワンフロアブル ダイアジン水和剤34 10 mℓ 50 mℓ 100 g	前日 30日前	3回 2回	300	晩腐病 黒とう病 うどんこ病 灰色かび病 (カスカバ類)	<u>※黒とう病対策のため、必ず散布時期を守りたっぷり散布する。</u> ① オンリーワンフロアブルに代えてキントー顆粒水和剤1,000倍(45日前、4回(開花後は1回))を使用しても良い。ただし、薬液の汚れがあるので、散布時は施設や住宅への飛散に注意する。
	5月下旬 展葉6枚頃	④ 展着剤 オーソサイド水和剤80 10 mℓ 125 g	30日前	3回	300	晩腐病 べと病 灰色かび病 黒とう病	① カイガラムシ類、ツマゲロアオカシカメ、(ツヤケヒメゾウムシ)発生園はコルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
	6月上旬 展葉9枚頃	⑤ 展着剤 ドーシャスフロアブル 10 mℓ 50 mℓ	60日前	3回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	① (アブラムシ)、カイガラムシ類発生園はトランスフォームフロアブル1,000倍(14日前、3回)を加用する。
	6月上旬 展葉10枚頃	⑥ 展着剤 ストマイ液剤20 10 mℓ 100 mℓ	満開予定日の 14日前~ 開花始期	1回	300	【無種子化】	① <u>散布遅れがないように注意する。</u> ② <u>有核巨峰には絶対に飛散しないよう注意する。</u> ③ 花穂に当たるようたっぷり散布する
	6月上旬 開花始期	展着剤 フラスター液剤 10 mℓ 50- 66 mℓ	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	2回	300	【着粒増加】 【新梢伸長抑制】	① 農薬とは混用しない。(単用散布とする) ② 例年花振する園は必ずフラスターを散布する ③ 重複散布は強い新梢伸長抑制効果があるので避ける。
	6月中旬 開花直前	⑦ 展着剤 パレード15フロアブル オーソサイド水和剤80 スプラサイド水和剤 10 mℓ 50 mℓ 125 g 66 g	7日前 30日前 14日前	2回 3回 2回	400	晩腐病 べと病	① <u>昨年ハダニの発生があった場合はカキイトフロアブル1,000倍(14日前、1回)を加用する。</u> ② パレード15フロアブルに代えてフルツバゲ-1,500倍(7日前、3回)を使用してもよい。
	前回から 10日以内 (落花直後)	⑧ コテツフロアブル スイッチ顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 50 mℓ 33 g 100 g	60日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	灰色かび病 褐斑病 黒とう病	① <u>マゼブ成分を含む農薬(ジマンダイセン・ゾーベックエーブル・ペンソゼブ・リッドミル)は使用回数に注意する。(合計2回まで)</u>
	前回から 10日以内 (落花12日)	⑨ フェニックスフロアブル ゾーベックエーブル顆粒水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 25 mℓ 133 g 10 g	14日前 45日前 21日前	2回 2回 2回	400	チャノキアザミヤ (スリップス類) フタテンヒメコバエ (ナミハダニ類) (クビアスカシバ)	① スリップス発生園は主軸に薬液が達するようたっぷり散布する。 ② <u>マゼブの成分を含む農薬の使用回数に注意(上段注意事項)</u> ③ 主幹害虫発生園は主幹、主枝にたっぷり散布する。 ④ ゾーベックエーブルに代えてペンソゼブフロアブル1,000倍(60日前、2回)を使用してもよい。
	前回から 10日以内 (落花17~20日)	⑩ ザンプロDMフロアブル アミスター10フロアブル ディアナWDG 50 mℓ 100 mℓ 10 g	30日前 30日前 前日	2回 3回 2回	400		① 散布の際は果粉溶剤に注意し散布する。 ② <u>汚れや果粉溶剤が心配される場合は、ザンプロDMフロアブルに代えてイトフィンフロアブル1,000倍(7日前、4回)を散布する。</u>
	前回から 10日以内 (落花30日)	<b>特別散布(袋かけ未実施園)</b> ライメイフロアブル オンリーワンフロアブル アーデントフロアブル 25 mℓ 50 mℓ 50 mℓ	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	晩腐病・べと病 褐斑病・黒とう病 灰色かび病 アザミヤ類・ハダニ類	① <u>袋かけが間に合わない園は必ず散布する。</u> ② 散布の際は果粉溶剤に注意し散布する。 ③ 散布以降、袋かけ未実施の場合は、ホウダインフロアブル2,500倍(21日前、3回)を散布する。※ただし汚れに注意する。
	7月下旬 (袋掛直後)	⑪ ムッシュボルドーDF アルパリン顆粒水溶剤 コロマイト水和剤 K・Kステッカー(展着剤) 200 g 50 g 50 g 33 mℓ	— 前日 7日前 —	— 3回 2回 —	400	べと病・さび病 チャノキアザミヤ ブドウウカミキリ カメムシ類 コカイガラムシ類 ハダニ類	① <u>ムッシュボルドーDFは高温時や降雨時に薬害があるので、散布の際は注意する。(薬害が心配な園はクレフノン100倍を加用する)</u> ② K・Kステッカーに代えてアビオン-E1,000倍を使用してもよい。ただし、アビオン-Eを使用する場合は最初に調合する。
	8月上旬 (前回から 10日以内)	⑫ ムッシュボルドーDF テルスター水和剤 200 g 100 g	— 14日前	— 1回	400	べと病 さび病 チャノキアザミヤ	① ICボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー、コイト3000、2,000倍、ムッシュボルドーDF500倍を使用してもよい。(上段注意事項参照) (薬害の心配な園はクレフノンを加用する) ② ボルドー液は、桃・プラム・梨等に薬害が発生するので、使用する場合は隣接園に注意する。 ③ べと病発生園は、ICボルドーに代えて下記薬剤を使用する。 ・レバスタフロアブル2,000倍(7日前、3回) ・イトフィンフロアブル1,000倍(7日前、4回) ④ コガネムシ類・(アマガサハダニ)発生園はカガチWDG1,500倍(21日前、5回)を加用する。(散布直前混用) ただし、カガチフロアブルなど早生品種が混植されている場合は散布時期に注意する(収穫21日前まで)。
	8月中旬 (前回から 10日以内)	⑬ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		
	8月下旬 (前回から 10日以内)	⑭ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病 さび病 晩腐病	
	9月上旬 (除袋直前)	<b>特別散布</b> 展着剤 ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		① 収穫が遅れる場合は散布する。

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。 \* 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーを禁止します